

## カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (歯科衛生学科)

○令和6年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。  
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

### 【成果・できていること】

- ・全ての科目において、学生が履修するにあたって、より高い教育効果が得られるように検討して、開講時期を設定している。卒業時までの学生の学びの到達のひとつの指標となると考えられる、歯科衛生士国家試験において、高い合格率を維持していることから、成果が上がっていると評価できる。
- ・多くの教員は、隣接科目と、過度な重複を避けるように配慮している。
- ・何人かの教員は、隣接科目との若干の重複は、学生の理解を深める上で、ある程度あった方がよいと考えている。
- ・教育は、ディプロマ・ポリシーに合致した内容の授業を展開している。

### 【課題・できていないこと】

- ・教員によっては、隣接科目との若干の重複は、学生の理解の上であった方がよいと考えているが、時間が足りないことから、それを最小限にせざるを得ないことが制約となっている。
- ・開講時期に関して課題がある。専門基礎教育科目において、基礎医学的な知識を備えていないと理解が難しいという科目がいくつか存在する。基礎医学的な知識（病態の成り立ちの知識等）を修得した後に、履修した方が望ましい科目であっても、その後に各論的な内容の科目や、臨床歯科学の科目群を履修するという流れがあることから、現行の3年制課程においては、理想的な開講時期を設定する事が難しい状況である。

### 【その他・今後の検討事項等】

- ・理想的な開講時期を設定できるようにするためには、現行の3年制課程では難しいが、4年制課程であれば、それが可能となる。4年制課程への移行を早急に検討すべきと考えられる。
- ・今後更に充実した教育を遂行していくためには、引き続き検証を定期的に行い、それをもとに改善すべき点があれば、改善していくことが重要である。